# 「中風の人の癒し」

マルコ２：１～１２

## 鈴木先生の救いの証し

高校１年生の時に hi-b.a のキャンプの中でイエスを救い主として受け入れて救われました。Hi-b.a とはクリスチャンの高校生を中心とした集まりです。定期集会、キャンプ、○○パーティーなど楽しい企画が盛りだくさんの超教派の集まりです。さて、鈴木先生は母子家庭で育ちます。イエス様と出会った高校 1 年生の時というのは、家庭裁判所からの連絡待っているような事を起こしている時でした。そんな時、中学時代の友人がクリスチャンで、hi-b.a に熱心に誘ってくれていました。その hi-b.a の夏キャンプの中で罪の赦し、罪の身代わりとして十字架にかかることがイエス様のことを信じ、救いを受け取ることができました。このように、私たちは教会に導かれていますが、きっかけとなった“誰か”がいるはずです。イエス様と出会うきっかけの事柄に関わってくださった人が存在するはずです。

## 中風の癒しの話しから

まず、このストーリーをみていった時、想像を働かせてみてください。4 人の人にかつがれて、イエス様の元にいきますが、どのくらいの距離を運んでいったのでしょうか。なぜ 4 人で運んだのか、そして誰かが思いたったのか、もともと友だちだったのか、4 人は親戚など声をかけやすかった人なのか・・・このようなことについては聖書には何も書かれていません。今日、注目していきたいことはこの 4 人はお医者さんのところではなく、イエス様のところに連れていったということです。イエス様であれば、病で倒れている人を変えることができると思い、仲間を集めてイエス様のところに連れていきました。この時、その 4 人の目的は１つであったと思います。イエス様なら奇跡が起こると信じていたのです。

4 人がイエス様のいる家に着いた時にはすでに人だかりができていました。彼らはそこでもう会えないとあきらめたのではなく、何とか”今“会えないかと屋上に上り、屋根を外していました。私たちはこの今という時を逃していないかということを考えてみたいと思います。

## 最後だとわかっていたらという詩

あなたが眠りにつくのを見るのが最後だとわかっていたら
わたしはもっとちゃんとカバーをかけて　神様にその魂を守ってくださるように祈っただろう
あなたがドアを出て行くのを見るのが最後だとわかっていたら　わたしはあなたを抱きしめて　キスをして　そしてまたもう一度呼び寄せて抱きしめただろう
あなたが喜びに満ちた声をあげるのを聞くのが最後だとわかっていたら　わたしは　その一部始終をビデオにとって毎日繰り返し見ただろう
あなたは言わなくても分かってくれていたかもしれないけれど最後だとわかっていたら　一言だけでもいい・・・「あなたを愛してる」とわたしは　伝えただろう
たしかにいつも明日はやってくる　でももしそれがわたしの勘違いで　今日で全てが終わるのだとしたら、わたしは今日どんなにあなたを愛しているか　伝えたい
そして　わたしたちは　忘れないようにしたい　若い人にも　年老いた人にも　明日は誰にも約束されていないのだということを愛する人を抱きしめられるのは　今日が最後になるかもしれないことを
明日が来るのを待っているなら今日でもいいはずもし明日が来ないとしたらあなたは今日を後悔するだろうから
微笑みや　抱擁や　キスをするためのほんのちょっとの時間を　どうして惜しんだのかと　忙しさを理由にその人の最後の願いとなってしまったことを　どうして　してあげられなかったのかと
だから　今日あなたの大切な人たちをしっかりと抱きしめよう　そして　その人を愛していること　いつでも　いつまでも　大切な存在だということを　そっと伝えよう
「ごめんね」や「許してね」や　「ありがとう」や「気にしないで」を伝える時を持とう　そうすれば　もし明日が来ないとしてもあなたは今日を後悔しないだろうから

ノーマ　コーネットの詩より

この詩は自分の息子をなくした母の詩です。私たちが今を大切にしていくために、聖書のことばではありませんが、感じることができる詩ではないかと思います。私たちは思っていても行動しないことも多々あります。神様がしなさいと言われていること、その時を逃さずにしていくことが大切です。

## 今を大切にする

中風の人を運んだ 4 人は今を大切に、向き合ったからこそ、屋根にのぼり、屋根をはがして、イエス様の前につりおろすことをしました。その人を大切に思うとき、行動が伴っていくものです。真剣に向かった時、イエス様が目の前にいる間に、届くにはどのような方法があるのか考えた結果がこの大胆ともいえる行動になりました。これこそ聖書の伝える信仰者の歩みです。そして彼らの信仰みて癒されたイエス様は、私たちが祈ると同じように、心を動かしてくださる方であるということなのです。たとえ本人が願っていなかったとしても私たちは 4 人となり、祈り支え、導かれた行動を大胆にしていきましょう。

## なぜ罪の赦しについて語ったのか

私たちが求めていたものは癒しでした。しかしイエス様は「子よ、あなたの罪は赦された」と言っています。当時の慣習として不遇な人とは罪を犯した故になるという因果応報の価値観がありました。当時の慣習を打ち破るために、「子よ」と呼びかけて下さるのです。たとえ人が罪は赦されたと言ったとしても保証できません。神様だけが宣言することができます。しかし罪の赦しは言葉だけです。それを目に見える形で表すこととして癒しが行われました。この 4 人の通った道はこれより数年後、すべての罪を背負って十字架にかかろうと、ゴルゴダの道を通られたイエス様に準えることができます。イエス様は私たちを神の元に連れて行くために、十字架の道を歩んでくださいました。罪を赦すことができたのは、イエスご自身が背負うからなのです。私たちはこの 4 人の人の１人になりたいのです。

## まとめ

私たちは今を大切にいきていくことが求められています。素直に神様を求めることができればよいのですが、周りの人の助けによってイエス様の元に行ける場合もあります。私たちがまず神様を素直に求めていきましょう。そして周りに目を向けてみましょう。私たちにはイエス様の元に連れていきたい存在が必ずいるはずです。その方は、悲しみ、失望、絶望、不安、疑い・・・など、痛んでいるところがないでしょうか。私たちが連れていく先はすべてを究極的に解決してくださるイエス様のところです。そのために私たちにできることを祈りつつ、導かれたのであれば、行動していきましょう。「子よ。あなたの罪はゆるされた」「あなたに言う。起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい」この２つを行って下さる方はほかにはいません。私たちも日々この方と出会い、多くの方が出会えるようにしていきましょう。

（要約者：平澤　一浩）

（２０１９年1月２０日）